

九月定例公演事前学習講座

生誕百年 三島由紀夫「能楽」という底流をめぐって

今年で生誕百年を迎える作家三島由紀夫。小説や評論、戯曲など、多彩なジャンルで活動をした彼は、能楽に魅了され影響を受けたことでも知られています。今年度の名古屋能楽堂定例公演は、この三島由紀夫の事跡や作品に関わる能作品をご紹介します。

九月定例公演の能の演目は「葵上」と「源氏供養」。日本の古典文学を愛した三島は、源氏物語と紫式部に関わる能の二作品を「近代能楽集ノ内」として現代劇に翻案、発表しました。事前学習講座では、三島を魅了した能の両演目について物語背景や見どころなどをご紹介します。

～『源氏供養(げんじくよう)』あらすじ～

安居院法印が石山寺に向かう途中、一人の女から、光源氏を供養しなかった罪で地獄に堕ちたので源氏を供養し自分も弔うようにと頼まれる。法印が紫式部のことだと察すると女は消える。＜中入＞法印が石山寺で法要を始めると、紫式部の霊が現れ源氏の供養に感謝し、源氏物語の巻名を読み込んで現世の儚さと成仏を願う心を謡い舞を舞う。紫式部は石山観世音の化身であり世の無常を伝えるために源氏物語を書いたと法印は悟る。

～『葵上(あおいのうえ)』あらすじ～

光源氏の正妻・葵上の病の原因を知るために、朱雀院の臣下が照日の巫女に梓の弓による呪法を行わせると、六条御息所の生霊が現れる。生霊は、葵上のために光源氏の愛を失った恨みを語り、葵上を激しく責めて命を取ろうとするが、鏡に映った我が身を恥じて消える。＜中入＞次に横川の小聖が呼ばれて悪霊退散の祈祷を始めると、六条御息所の生霊が鬼となって現れる。両者は激しく争うが、生霊は法力によって祈り伏せられる。

ご受講には事前学習講座
チケットが必要です

500円

チケット取扱いについて

チケット発売日：6月27日（金）

チケット取扱い：

名古屋能楽堂 TEL:052-231-0088

名古屋市文化振興事業団チケットガイド

TEL:052-249-9387（平日9:00～17:00／チケット郵送可）

名古屋市文化振興事業団が管理する文化施設窓口

＜土日祝日も営業＞でもお求めいただけます。

（工事休館などがありますので、ホームページでご確認下さい。）

講座日時

【日 時】 8月9日（土）
14:00～16:00

【会 場】 名古屋能楽堂 会議室

【講 師】 三 苦 佳子
（桜花学園大学非常勤講師）

【定 員】 60名（未就学児入場不可）

※チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

九 月 定 例 公 演

【9月7日（日）13:30開演】

能 「源氏供養」（喜多流） シテ／長田 郷

狂言 「弓矢太郎」（和泉流） シテ／鹿島俊裕

能 「葵上」 梓之出（観世流） シテ／久田三津子

指定席 4,200円、自由席（一般） 3,200円

自由席（学生） 2,000円



主催：公益財団法人 名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]